○ムニンハナガサノキとハナガサノキ（山崎　敬）Takasi YAMAZAKI: *Morinda boninensis* Ohwi and *M. umbellata* L.

ムニンハナガサノキは小笠原諸島の父島列島と母島列島に分布しているが，父島のものと母島のものとはやや異なる。父島のものは葉柄の長さは 4-10 mm であるが，母島では 10-20 mm である。葉は母島の方がやや薄く，先はとがっている。花柄は父島のものは長さ 3-10 mm と太く短いが，母島では 7-15 mm と細く長い。葉柄の違いはすでに籾山泰一氏が気がつかれていて，東京大学の標本上に手記されている。分布域も異なるので区別してもよいと思う。ところが母島のものであげた上記の特徴はハナガサノキの性質とよく一致する。母島のものはハナガサノキとほとんど区別できない外観をもっている。父島のものは葉が厚く先はやや鈍く，葉柄は短く，花柄は太く短いので，種類として区別してもおかしくないほどであるが，母島のものを通してハナガサノキと連絡するようである。ただ父島と母島のものが共通しているのは，托葉が広楕円形で先が平たく縁に突起がないことである。琉球・台湾のハナガサノキでは托葉は広楕円形で先端に糸状突起がある。この点だけは両者の違いとして認められる。しかしハナガサノキは分布が広く，中国・インドシナ・マレーシア・インドに広がっていて，葉や托葉のかたちにも変化がある。中国大陸のものは托葉は卵形で先がとがる傾向がある。*Morinda umbellata* は地域的にいくつかの変異を認めることができる様である。ムニンハナガサノキもそのひとつとして扱うのがよい様に思う。小笠原諸島のものを亜種として区別し，母島・父島のものをそれぞれ変種として扱うのがよいのでないかと考える。

Morinda umbellata L. subsp. **boninensis** (Ohwi) Yamazaki, stat. nov.

Morinda boninensis Ohwi in Fedde, Rep. Spec. Nov. Veget. **36**: 57 (1934).

var. **boninensis**　ムニンハナガサノキ

Dist. Isls. Bonin: Isls. Chichizima; Isl. Mukōzima, Isl. Otōtozima, Isl. Anizima and Isl. Chichizima.

var. **hahazimensis** Yamazaki, var. nov.　ハハジマハナガサノキ

Folia tenuiter chartacea apice cuspidato-acuminata, petiolis 10-20 mm longis; pedicellus 7-15 mm longus.

Hab. Isls. Bonin: Isl. Hahazima (T. Nakai, Jul. 15, 1920, s. n. Typus, TI), Hahazima, Kuwanokiyama (T. Tuyama, Jun. 14, 1938, TI), Hahazima, Sekimonzan (T. Tuyama, Nov. 26, 1935, TI), Hahazima, Nagahama—Oki (T. Momiyama, S. Kobayashi & M. Ono, Mar. 21, 1972, no. 126053, TI).

（東京大学 理学部附属植物園）